

《環境のお話》



海水汚染を探るレジンペレット

2009年4月

レジンペレットというものを知っていますか？プラスチック製品の原料となる小さな粒です。直径は約3ミリ。普段目にする機会はなかなかありませんが、ペレットは工場からの流出などにより、世界中の海に漂っていて、海洋生物が誤って摂取してしまうという問題があります。

プラスチック原料であるため、一度漏出してしまうと分解されずに長期間海中に残ります。ペレットを使用する工場や運搬時には、注意を払わねばなりません。

しかし、不思議な話ですが、そんなペレットが海水汚染の調査活動に役立っています。ペレットには、海中の化学物質を海水の数十万倍の濃度で吸着するという性質があります。海水汚染調査の際、その性質を利用すると、本来は海水を約10リットル必要とする調査が、ペレット数粒で可能になります。運搬・実験作業時の手間を考えると一目瞭然の差ですね。このペレットの調査では、どの海が、何によって、どれくらい汚染されているのかということなどがわかります。

レジンペレットは汚染物質の一つですので本来漂流してはならないものですが、汚染防止のための研究に役立つという不思議な一面があるのですね。

Copyright(c) 2006 OKAYAMA CO., LTD. All Right Reserved



〒113-0034 東京都文京区湯島2丁目32番7号

TEL 03-5688-6700 / FAX 03-5688-6709 [E-MAIL okayama@kk-okayama.co.jp](mailto:okayama@kk-okayama.co.jp)